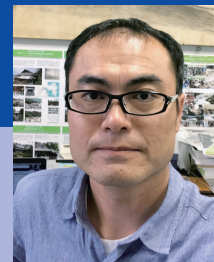




東北文化遺産の評価と活用



ライフデザイン学部 安全安心生活デザイン学科/建築設計、保存再生、歴史意匠、地域計画

大沼 正寛 ONUMA Masahiro

教授、博士（工学）

1. 研究内容

地域の建築資産は、日々価値を深め、かけがえのない遺産となっていくが、資産価値（交換価値）は減価する。ここで、昨今の不安定な経済情勢を考えると、地域資産を正當に評価し、これを保全することで文化を継承するとともに、経済面の不安定さに翻弄されないよう、そのまま保存・活用することも重要である。

例えば東北には、天然スレート屋根の民家が2,000棟以上も残る。そのまま保全すれば再調達困難な高級資産だが、解体すれば産業廃棄物になってしまう。

東北の文化遺産を正しく評価、活用する研究・デザイン実践が急務である。



2. 地域・産学連携の可能性

当研究室は、地域文化遺産を保全したい、正當に評価してほしい、といった相談・依頼を、各方面から受けている。実際、それらの多くは、木軸構造材の再調達困難性はもちろん、屋根・外装・建具等の建築部位・部材、そして何よりも、地域の歴史を刻んできた愛着・風合い美・歴史性といった経年醸成価値を有しており、その保全は地域のアイデンティティや産業形成の中核となるものである。

東北地方には未だ評価の十分でない多種多様な文化遺産があり、それらは個人（民）や地方自治体（官）、そして産業界といった様々なステークホルダーのなかで活用されることが望ましい。近年は、ヘリテージ・マネジャーなる職能像に期待が集まっており、こうした評価・活用立案のもと、地域産業デザインがなされることで、唯一無二のものが生み出されるものと期待される。



執筆論文

大沼正寛「動態的広域文化的景観—陸前天然スレート民家」日本建築学会大会（近畿）農村計画部門PD資料集「文化的景観のまもりかた」pp51-54, 2014.9



文化遺産、保存活用、継承、資産評価、経年醸成価値